

令和 7 年 6 月 2 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2024

課題番号：19K02183

研究課題名（和文）高齢者と伴侶動物の福祉を連携させるサポート・システムの構築

研究課題名（英文）Proposing Support Systems Integrating the Welfare of Elderly People and Their Companion Animals

研究代表者

安野 舞子（Yasuno, Mako）

横浜国立大学・教育推進機構・准教授

研究者番号：20507793

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、高齢者と伴侶動物（ペット）の福祉を両立させるサポート体制の構築を目的とし、ペット共生型高齢者施設での聞き取り調査および全国の動物愛護管理行政へのアンケート調査等を実施した。さらに、全国自治体アンケートの自由記述に記載されていた情報を基に国内での先進的な取り組み事例について聞き取り調査を行なった。それらの結果を踏まえ、高齢者が最期まで伴侶動物と共に安心して暮らせる社会の実現に向けて、3つのサポート体制のあり方、地域の支援を得ながらの在宅での終生飼養、ペットとの同居が可能な高齢者施設での終生飼養、「永年預かり」という形を用いた終生飼養を提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

超高齢社会が益々深刻化する日本において、伴侶動物との共生を望む高齢者が最期まで安心して暮らせる環境の整備は、喫緊の課題である。本研究では、高齢者福祉と動物福祉の両面から現状と課題を整理し、「自助」を基軸に「共助」「公助」を組み合わせた地域共生社会の在り方として、3つのサポート体制を提案した。これは、高齢者と伴侶動物の持続可能な共生に向けた施策の立案に資するものといえる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to establish a support system that ensures the well-being of both elderly individuals and their companion animals. To this end, interviews were conducted at elderly care facilities that allow residents to live with their pets, along with a nationwide questionnaire survey targeting animal welfare and control administrations. In addition, based on the open-ended responses in the national survey, follow-up interviews were carried out to investigate advanced case studies from municipalities across Japan. Drawing on the findings from these investigations, the study proposes three models of support systems to enable elderly people to live with their companion animals until the end of life with peace of mind: (1) lifelong cohabitation at home with support from the local community, volunteers, or paid services; (2) lifelong cohabitation in pet-inclusive elderly care facilities; and (3) lifelong care through long-term foster programs such as the "permanent foster care" model.

研究分野：人と動物の関係学

キーワード：人と動物の関係学 高齢者とペット飼育 高齢者福祉 伴侶動物福祉 地域包括ケアシステム 官民連携 地域共生社会

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

世界でも突出して超高齢社会の道を進む日本において、高齢者一人ひとりが健康で生きがいのある生活を送ること、そして増大する医療・介護費を抑制することは国家的課題である。そのような中で、高齢者の心身の健康維持を支える取り組みの一つとして「伴侶動物(ペット)の飼育」が注目されている。人と動物の相互作用に関する研究では、ペットとのふれあいが生理的・心理的・社会的に良い影響を与えることが報告されており、特に欧米では高齢者に対する有効性が実証されてきた。しかし一方で、入院や施設入居を機にペットの飼育継続が困難となり、やむなく手放す事例が多く、殺処分に至るケースもある。また、ペットがいるために入院や施設入居を拒み、身体状態が悪化する高齢者もあり、その間、ペットも適切な世話を受けられず、双方の福祉が損なわれるケースも多々見受けられる。さらに多頭飼育崩壊などの問題も発生しており、独居高齢者の増加とあわせて深刻な社会課題となっている。

## 2. 研究の目的

超高齢社会をひた進む我が国において、高齢者が伴侶動物(ペット)と共に最期まで生き生きとした生活を続けていけるためのサポート・システムのあり方を検討し、最終的に、高齢者と伴侶動物両者の福祉が守られるサポート体制モデルを提案することを目的とする。

## 3. 研究の方法

ペット同伴入居型高齢者施設への訪問調査、介護支援専門員・訪問介護員へのアンケート調査、および全国の自治体(動物愛護管理行政)を対象とした「高齢者のペット飼育問題に関するアンケート」調査を実施した。さらに、全国自治体アンケート調査の自由記述内容を基に、官民連携でペットを飼育する高齢者等を支援する合議体や、「永年預かり」という形で高齢者のペット飼育を支援するNPO法人を訪問し聞き取り調査を行なった。

## 4. 研究成果

### (1) 全国自治体アンケート調査による実態把握

全国129の自治体(動物愛護管理行政)を対象に行なった「高齢者のペット飼育問題に関するアンケート」調査では、問題の未然防止および早期発見・早期対応のためのサポートシステムのあり方について検討することを目的に、【高齢者からの犬猫の引き取り依頼状況】、【高齢者への犬猫の譲渡】、および【高齢者のペット飼育問題に関する多機関連携の有無】について確認した(2022年6月3日～7月末日)。

その結果、高齢者からの犬猫の引き取り依頼状況について、その理由の上位2つは「入院や施設入所で手放さざるを得なくなった」(41.4%)、「飼い主が亡くなった」(27.8%)であった。また、高齢者への犬猫の譲渡について、61.8%の自治体が年齢上限を設けていたが、ほとんどの場合は「飼養出来なくなったときに代わって飼養できる者がいる場合はその限りではない」としていた。

自治体区分(自治体数)	回収状況	回収率
都道府県(47)	46	97.9%
政令市(20)	20	100.0%
中核市(62)	58	93.5%
合計(129)	124	96.1%

アンケート回収状況

逆に、年齢上限を設けていない約4割の自治体についても、「飼えなくなったときに代わりに飼うことが出来る方の同意書の提出を求める」といった対応を行っていた。さらに、高齢者のペット飼育問題に関する多機関連携については、関係部局・組織・団体等との連携による「恒常的」な支援対策(体制)をとっている自治体は全体の8.0%程度であったが、「恒常的」ではないものの、何か起きた時に連携支援を行う体制を整えていたのは18.4%で、今はそのような体制は整っていないが、検討中である自治体も加えると54.4%であった。

このような自治体からの自由記述には、「解決のためには、多分野の関係者が連携し、問題解決に向けた取り組みを進める必要がある」といった、多機関・多職種連携による共助・公助の取り組みの必要性が述べられていたり、「飼育したいという思いを持たれる高齢者が無理なく犬猫を飼育できる環境があれば、生活の質の向上に繋がるのが考えられます。例えば、高齢者向きの犬猫を斡旋する、世話ができなくなった場合に引き取り次の飼い主への橋渡しを行うといったシステムがあればよいと思います。」と、民間事業者の力に期待するような記述がみられた。

### (2) 国内での先進的な取り組み事例

全国自治体アンケートの自由記述に記載されていた情報から、伴侶動物を飼育する高齢者を周囲で見守る地域の支援体制のあり方、施設への入所が必要となった高齢者が、伴侶動物と共に入所できる施設の拡充、伴侶動物との生活を望む高齢者が、最期まで安心して飼育できる環境を提供する「永年預かり」のシステムの実現、の3つを整理することが、高齢者と伴侶動物の福祉を連携させるサポート体制のモデル提案になり得ると考えた。そこで、上記①～③に該当

する取り組みを行っている団体・施設について訪問調査を行ない、それぞれの活動の特徴を取りまとめた。

#### **こうが人福祉動物福祉協働会議（滋賀県甲賀市）**

2017年、滋賀県甲賀市に発足した「こうが人福祉動物福祉協働会議」は、行政と民間双方の社会福祉関係者や動物愛護関係者が集まり、飼育崩壊をはじめとする人と動物の問題について、定期的に情報共有、事例検討を行ったり、研修会やボランティア（こうがわんにゃんボランティア）育成なども行ったりしている、多職種・多機関連携の官民協働モデルである。この協働会議の特徴は、「他者を責めず、互いの得意分野を持ち寄り問題解決に協力する」というグラウンドルールのもと、関係機関が連携して人と動物の福祉を同時に考える点にある。高齢者のペット飼育問題に対して、地域全体で支援する体制を築いており、環境省のガイドラインでも先進的な事例として紹介されている。

#### **特別養護老人ホーム さくらの里山科（神奈川県横須賀市）**

「さくらの里山科」は、日本初の「ペットとともに入居できる特別養護老人ホーム」として2012年に開設された施設である。ペットと暮らせるフロア（2階）に犬ユニット、猫ユニットがあり、入居者は犬や猫と同居可能な個室で生活することができ、ペットもまた、自由に館内を移動し、穏やかな環境で暮らしている。ペットの世話は犬・猫ユニットの介護職員全員が行っており、提携獣医師やお散歩ボランティアとの連携のもと、ペットの福祉にも万全が期されている。入居者が先に亡くなった場合は、家族がホームでの飼育を希望する場合、実費に加え、世話代5,000円/月を支払う形で、残されたペットは継続してホームで暮らすことができる。なお、保護犬・保護猫も迎え入れており、「あきらめない福祉」との理念のもと、さくらの里山科は犬や猫との生活を諦めずに最期まで共に過ごしたいという高齢者の希望を叶える、画期的なサポート・モデルといえる。

#### **NPO法人 猫と人と繋ぐツキネコ北海道（北海道札幌市）**

「ツキネコ北海道」は、2010年に札幌初の「保護活動しながらのカフェ」として「ツキネコカフェ」をオープンし、2012年には内閣府よりNPO法人として認可を受けた、行き場を失った猫たちを保護し、新しい家族との出会いを支援することを目的とした団体である。中でも、高齢者を対象とした取り組みとして注目されるのが、「永年預かり制度」と「永年後見人制度」である。「永年預かり制度」は、高齢者や病気などにより飼育継続に不安がある人でも、保護猫を「預かる」形で一緒に暮らせる制度であり、所有権はツキネコ北海道にあり、飼い主の生活状況が変わった際には猫を団体に戻せるため、安心して猫との生活を始めることができる。一方、「永年後見人制度」は、現在猫を飼っている高齢者が将来のために、猫の所有権を生前にツキネコ北海道に移す仕組みで、飼い主が亡くなった後も猫の生活が保障される。これらの制度は、高齢者が抱える「将来ペットの面倒を見られなくなるかもしれない」という不安を根本的に解消する仕組みであり、同時に、猫たちも保護シェルターではなく一般の家庭で安心して生涯を過ごすことができ、動物福祉の面からも非常に先進的である。

### **（3）高齢者と伴侶動物両者の福祉が守られる3つのサポート体制（選択肢）のあり方**

以上の実態把握調査および先進的な取り組み事例の分析を通して、本研究では「高齢者と伴侶動物両者の福祉が守られるサポート体制のあり方」として、以下3つの選択肢が存在し得ることを提案する。

地域社会、ボランティア団体、あるいは有償サービス等の支援を得ながら、自宅において終生飼養を継続する形態

伴侶動物とともに入居可能な高齢者施設へ移り住み、終生飼養を継続する形態

「永年預かり制度」等を活用し、飼い主の将来的な生活変化に備えつつ、終生飼養を担保する形態

これらのサポート体制の確立にあたっては、伴侶動物を飼育する高齢者自身による一定の自助努力が前提となる。しかしながら、それのみでは持続可能な体制とはなり得ず、福祉・保健・動物愛護等の多分野にわたる専門職および関連機関による連携、さらには行政と市民社会との協働（共助・公助）が不可欠である。

急速に進行する少子高齢化および核家族化により地域とのつながりが希薄化する現代日本において、高齢者と伴侶動物の共生支援を軸とした取り組みは、地域包括ケアや地域共生社会の形成を促進する契機ともなり得る。本研究の成果が、今後の制度設計や地域実践の参考となることを期待したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 安野 舞子
2. 発表標題 高齢者とペットの幸せな共生の実現：「福祉」をめぐる現状と課題
3. 学会等名 人と動物の関係学会（招待講演）
4. 発表年 2025年

1. 発表者名 安野 舞子
2. 発表標題 高齢者と伴侶動物の福祉を考える ～豊かな共生を目指して～
3. 学会等名 高齢者とペットの福祉を考える秋田県民フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2025年

1. 発表者名 安野 舞子
2. 発表標題 高齢者とペットの共生 ～全てのいのちが輝く社会を目指して～
3. 学会等名 公益社団法人日本愛玩動物協会公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2025年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安藤 孝敏  (Ando Takatoshi)  (00202789)	横浜国立大学・大学院環境情報研究院・教授    (12701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------